

「6月の第3日曜日は「父の日」」

「父」という字は象形文字で、右手に棒を持った形より成り立っています。それでは、右手の棒は何を意味しているのでしょうか。

まず第一には、家族を外敵より守る防御の為の武器としての棒です。原始時代において獣から、又、他の部族から襲われることがあるのであるので、自らが自らを守らなければ生きていけません。その為の父の役割を棒でもって表しているのです。

第二には、家庭内をまとめる指揮棒です。お父さんが偉いから指揮棒を持っているのではなく、家庭全体を見回して家族の気持ちを汲み取り、方向づけていく役目なのです。その為には、家族より信頼されていなくてはなりません。お互いに信じ合ってこそ、その指揮棒の微妙な動きをも見逃さないのです。心を一つにしたハーモニーが奏でられるわけです。

古歌に「父は照り母は涙の露となり同じ恵みに育つなでしこ」とあります。父心の「慈の心」と、母心の「悲の心」の二つがうまく調和しているところに子どもが育つというのです。

最近は、父権の喪失が叫ばれています。**弱い者いじめの強者でなく、どのような困難にもめげない根性があり、又、弱者を暖かく包み込む強者の父親**が望まれます。

「お父さんが大好きな一人娘の話」

ある年の父の日には、手作りの「肩こり治療券」をプレゼントしました。その治療券は自宅を治療院に持って、一枚一枚丁寧に診療時間や名前、予約の電話番号などを記入した手の込んだ物です。

しかし、お父さんは治療券を全然使ってくれません。肩もこらず元気なのはうれしいのですが、娘はちょっと不満です。「なんで使ってくれないの?」と聞いてもお父さんは「今度ね。」と言うばかり。時が流れ、娘はすっかり大人になり、肩こり治療券のことなど忘れてしまいました。お父さんとの関係も以前とは変わり、会話も少なくなりました。

そんなある日、お父さんが小銭だけを持ってタバコを買いに出かけました。すぐ近所のはずなのに1時間たっても帰ってきません。財布も携帯も家に置いてあり、連絡も取れません。娘とお母さんはだんだん心配になってきました。

そこへ家の電話がなりました。なんと、お父さんが事故で病院に運ばれていたのです。すぐ病院に向かい、お父さんのもとへ行くと、家に連絡をくれた看護師さんがお父さんの小銭入れを持ってきました。

「小銭入れの中にこれが入っていましたよ。おかげで連絡することができました。」

看護師さんが見せてくれたのは小さな紙切れ。娘はその紙を見て思い出しました。**それは幼い頃父の日にプレゼントした未使用の「肩こり治療券」だったのです。**

何年も前の父の日のプレゼントをお父さんは大切に持っていてくれたのです。娘は自分が作った肩こり治療券が、お父さんの事故を知らせてくれることになるとは思ってもいませんでした。

幸いお父さんは軽い骨折で、命に別状はありませんでした。

本当に心配した大事件でしたが、今となってはいつまでも語られる良い思い出となりました。

「両親へのあいさつ」の話

結婚式を数日後に控えたある日のこと、私は初めてネイルサロンというものに行きました。普段ネイルはしないのですが、人生に一度の晴れ舞台、ネイルぐらいしてみようという気になりました。

ネイルは爪のお手入れからストーンまで入れて、結構時間がかかりました。手をずっと施術してもらっているの、ネイリストさんとの話も花が咲きました。そんな中で、両親へのあいさつはどうするのかという話になりました。両親へのあいさつとは結婚式の朝に「今までお世話になりました」と親に頭をさげる、あの挨拶です。

私は実家が遠方のため、両親は挙式をするホテルに前夜から泊まることになっていました。

高校卒業後からずっと家を出ているし、一緒に住んでいるわけでもないし、前日はホテルだからする予定はないと私は答えました。ネイリストさんは「あらー、残念ね、意外とするといいものよ」と軽く言っていました。その時は『そうなのか』としかか思っていなかったのですが、だんだん気になってきました。そうして迎えた結婚式当日、結婚式のリハーサルも無事終わり、夜はそれぞれの部屋で休んでいました。私たちも準備などのため、ホテルに泊まっていたのです。夜になって連絡事項があったことを思い出して、私は両親の部屋に向かいました。会うのも久しぶりだったので、部屋でたわいもないことを談笑していたそのときです。**私は急に正座をしました。「お父さん、お母さん、聞いてよ……。」**

私が話し始める前に、お父さんが泣き顔になっていました。お母さんも顔がくしゃくしゃでした。

言う前から何が始まるのか、両親もわかったのだと思います。

そして口に決して出さなかったけど、両親がずっとずっと言葉で感謝を伝えられる日を待ち望んでいたのだ、ということもわかりました。

「お父さん、お母さん、今までありがとうございました。」

やっと、言えました。でも私が正座しているのはベッドの上だし、お父さんはステテコ姿だったし。

何だか想像していたのとは全く違うシチュエーションではありました。でも、誰もが泣いていました。

形なんて、どうでもいい。**ただただ感謝を伝えられて、本当によかったです。**全然、両親に挨拶することは考えていなかったの、きっかけをくれたネイリストさんに感謝しています。

“母の日”は何となく純粹に・・・

「お母さんいつもありがとう！！」「お母さん産んでくれてありがとう！！」
～って100%感謝を伝え形にする日のような気がして・・・

私のひがみかもしれませんが～何となく“父の日”の半分は・・・

「父親はこうあるべきだ！！」

と言われている感じを受ける日で、思わず・・・「頑張らなくては！！」と
ちょっと緊張してしまいます(笑)～でもそれでいいような気がします。

PS

私の二人の息子は、去年～今年と立て続けに結婚しました！

つまり大切な娘さんをお嫁さんにもらったという事です！

しっかり立派な夫～父親になってほしいと願ってます。

胸張って“私のように”と言にくい所がちょっと辛い・・・！！

